

カリン

学名：*Pseudocydonia sinensis* Schneid. 科名：バラ科



冷え込む冬は、カリンシロップに蜂蜜を加えた飲み物を飲んだりする方が多いと思います。また、カリンの入浴剤を用いて、冷えた体を温める人も多いですね。カリンの樹高は約8mで、4月頃になると枝先に濃いピンクの可愛らしい花を咲かせます。その実は黄色い楕円形で、手に持つと見た目よりも重みがあります。大きさは10cmほどで、硬く酸味と渋みがあり、そのままでは食べることはできません。そのため、スライスした実を蜂蜜や砂糖などの甘味料で漬け込み、ジャムやシロップ漬け、果実酒などに用いられます。

カリンの実は独特な芳香があります。柑橘系のような見た目に似合わず、濃厚で甘いフローラルな香りが特徴です。日本では民間療法として、カリンの果実を使っています。甘酸っぱいカリンのジャムやシロップは、食用だけではなく、咳止めや疲労回復に利用されてきました。現在でもカリンは喉に優しいことから、市販ののど飴としても活用されています。

カリンの花



生薬名	木瓜（モクカ）
薬用部位	果実
薬効	鎮咳、整腸作用
用途	下肢の倦怠感、むくみの緩和を目的とした漢方処方に配合 鶏鳴散加茯苓（ケイメイサンカブクリョウ） 民間薬として咳止めに利用される。



ツバキ

学名：*Camellia japonica* L. 科名：ツバキ科



2月頃から春にかけて可愛らしい花を咲かせるツバキは、日本原産の植物であり、冬の代表的な花となっています。花の色は赤色が一般的ですが、白色やピンク色なども存在します。枝先で下向きに花を咲かせるのが特徴です。また、ツバキの花は雄しべが花弁に直接付いている構造のため、花が散る頃になると花弁のみが落下するのではなく、花全体が一緒に散ります。

樹高は5〜10m、葉は厚く濃い緑色で光沢があります。若葉を丸めて筒状にし、先端を潰すと草笛になり、ラッパのような音が鳴ります。コツがいるため何度も葉を変えて挑戦することが必要でしたが、機会があれば皆さんも是非試してみてください。

ツバキの花は開花直前に採取され、健康茶として利用されています。また、種子からはツバキ油を採取し、軟膏基材、食用油、整髪料として幅広く活用されています。新鮮な葉をすり潰した汁は民間薬として、虫刺されや切り傷などに効くとされています。

生薬名	山茶花（サンチャカ）
薬用部位	花
薬効	滋養強壮、整腸作用
用途	整腸作用を期待した民間薬で、開花直前の花をお茶として飲用する。



アカマツ

学名：*Pinus densiflora* Siebold et Zuccarini 科名：マツ科



日本で古くから親しまれている木として、ヒノキやマツ、スギなどが挙げられると思います。中でもマツは松竹梅とおめでたい言葉として使われます。

アカマツは樹高約30〜40mで、幹は直立しています。葉の形は細長く2本が対になっていることが特徴です。

アカマツの他に代表的なマツとしてクロマツがあります。アカマツは新芽の色が赤色ですが、クロマツは白色です。葉がクロマツよりも柔らかく優しい印象から、別名、雌松（メマツ）とも呼ばれます。

アカマツの松ぼっくりは4〜5cmぐらいで少し小ぶりです。子どもの頃、松ぼっくりにビーズを付けてオリジナルの飾りを作成したことがあるのではないのでしょうか？

アカマツのようなマツ科マツ属の木から分泌される天然樹脂を蒸留し、精油を取り除いたものはロジンと呼ばれます。ロジンの最大の特徴の粘性を活かし、絆創膏や軟膏の材料として利用されるだけでなく、石鹸、ワックスなどにも幅広く活用されています。

生薬名	ロジン	局方生薬
薬用部位	樹脂	
薬効	—	
用途	絆創膏の基剤、石鹸やワックスに用いられる。	



オウバイ

学名：*Jasminum nudiflorum* Lindl. 科名：モクセイ科



オウバイはモクセイ科ソケイ属に分類され、ジャスミンの仲間です。ジャスミンと聞くと、芳香のある花のイメージがありますが、オウバイにはジャスミンのような芳香はありません。

梅に似た2 cmほどの黄色い花を咲かせることから、オウバイと呼ばれています。ロウバイやレンギョウも、小さく黄色い花を咲かせるので間違えられやすいです。他のモクセイ科の花も小さい花がまとまって咲くものが多く、キンセンカやライラックも同じ科の仲間です。オウバイは2〜4月にかけて開花することから、迎春花（ゲイシュンカ）とも呼ばれます。中国原産の落葉低木で枝は垂れ下がるように伸びます。これを半つる性と言います。繁殖力が強く、伸びた枝が地面につくとそこから発根するほどです。挿し木などをしてでもそこから根を張ることが出来ます。

春の開花期に花を採取し、日干しをして、利尿の目的で使用されてきました。

繁殖が容易なことから、一般的に薬というより、盆栽などで利用されます。

生薬名	迎春花（ゲイシュンカ）
薬用部位	花
薬効	利尿作用
用途	利尿、観賞の目的として用いる。